

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	情報科学専門学校
設置者名	学校法人岩崎学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・ 通信 制の 場合	実務経験のあ る教員等によ る授業科目の 単位数	省令で定める 基準単位数	配 置 困 難
工業専門課程	情報セキュリティ学科 (1年生)	夜・ 通信	13 単位	13 単位	
	情報セキュリティ学科 (2～4年生)	夜・ 通信	360 時間	320 時間	
	実践 AI 科 (1年生)	夜・ 通信	13 単位	13 単位	
	実践 AI 科 (2～4年生)	夜・ 通信	375 時間	320 時間	
	先端 IT システム 科(1年生)	夜・ 通信	10 単位	10 単位	
	先端 IT システム 科(2～3年生)	夜・ 通信	315 時間	240 時間	
	情報処理科 (1年生)	夜・ 通信	7 単位	7 単位	
	情報処理科 (2年生)	夜・ 通信	165 時間	160 時間	
	実践 IoT 科 (1年生)	夜・ 通信	7 単位	7 単位	
	実践 IoT 科 (2年生)	夜・ 通信	165 時間	160 時間	
	Web 技術科 (1年生)	夜・ 通信	7 単位	7 単位	
	Web 技術科 (2年生)	夜・ 通信	165 時間	160 時間	
	IT ライセンス科	夜・ 通信	4 単位	4 単位	

商業実務 専門課程	ビジネス科 (1 年生)	夜・ 通信	7 単位	7 単位	
	ビジネス科 (2 年生)	夜・ 通信	165 時間	160 時間	
(備考) ・1 年生は単位制、2 年生以上は時間制					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

教職員室に備え付ける「閲覧用シラバス」とともに一覧表をファイリングして公表

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第 2 号の 2－①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第 2 号の 2－②を用いること。

学校名	情報科学専門学校
設置者名	学校法人岩崎学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

法人本部事務所に備え付け

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	企業経営者	令和 7 年 5 月 29 日 ～ 令和 11 年度定時 評議員会終結時	法人運営に関する 助言と指導
非常勤	企業経営者	令和 7 年 5 月 29 日 ～ 令和 11 年度定時 評議員会終結時	法人運営に関する 助言と指導
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	情報科学専門学校
設置者名	学校法人岩崎学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。 (授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 授業計画(シラバス)を作成する際に、「授業計画(シラバス)作成ガイドライン」を定め、各教員はガイドラインに従って授業計画(シラバス)を作成している。授業計画(シラバス)は、本校の教育課程編成委員会において、取り入れるべき技術要素の提案および改善点の指摘を受け、期末に見直しと内容の更新を行っている。授業計画(シラバス)の内容については各教科目の初回の授業開始時に担当教員から学生に対して具体的な説明を行っている。	
授業計画書の公表方法	「閲覧用シラバスファイル」を教職員室に備え付け、希望者は誰でも閲覧が可能な状態にしている。 各教科科目の受講生に対し、書面および学内学生専用 Web サイトにて授業計画(シラバス)を説明している。
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。 (授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 学修成果の評価方法は、本校の「学則」「試験規程」「成績評価」「履修要項」に定め、その内容に従って評価を行っている。また、授業計画(シラバス)においても、科目ごとに評価方法を記載し公表している。なお、「学則」「試験規程」「成績評価」「履修要項」については、全学生に配布している「学生生活の手引き」にて記載・周知している。	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 (客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 「A」「B」「C」「D」の4段階の評価をそれぞれ3点から0点までに点数化し、点数の合計を授業科目数で除すことで、学生一人一人のGPAの算出を行い、成績の分布状況の把握を行っている。成績不振に該当する学生に対する個別指導等の判断材料として活用している。なお、「認」「否」の2段階で成績評価を行う授業科目においては、点数化が困難であることから、上記GPAの対象から除くものとする。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	教職員室に備え付ける「閲覧用シラバス」内に成績評価の方法を記載するとともに、それに基づくGPAの算出方法についても同シラバスにファイリングして公表し、希望者は誰でも閲覧が可能な状態にしている。また、学生に配布する「学生生活の手引き」においても公表している。
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 本校所定の全教育課程を修了し、「学則」に定めた卒業の要件を満たしている学生に関して、本校の教育方針である「高度な技術力の習得」「文書作成能力の育成」「豊かな人間性の涵養」の3項目の修得状況について会議により判定し、卒業後に活用・実践できる水準に達していることを確認できた場合に卒業認定を行っている。	
卒業の認定に関する方針の公表方法	教職員室にファイリングし備え付け、希望者は誰でも閲覧が可能な状態にしている。また、学生に配布する「学生生活の手引き」において公表している。

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	情報科学専門学校
設置者名	学校法人岩崎学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.iwasaki.ac.jp/financial_2026.html
収支計算書又は損益計算書	https://www.iwasaki.ac.jp/financial_2026.html
財産目録	https://www.iwasaki.ac.jp/financial_2026.html
事業報告書	https://www.iwasaki.ac.jp/financial_2026.html
監事による監査報告（書）	https://www.iwasaki.ac.jp/financial_2026.html

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
工業		工業専門課程	情報セキュリティ学科				○	
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
4 年	昼	144 単位 (2 年生以上は 3600 時間)	81 単位 (3750 時間)	51 単位 (1275 時間)	48 単位 (765 時間)	0 単位 (0 時間)	0 単位 (0 時間)	
			180 単位 (2 年生以上は 5,790 時間)					
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
160 人		476 人	0 人	5 人	45 人	50 人		

※令和8年4月1日に学則変更を実施。

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 授業計画（シラバス）を作成する際に、「授業計画（シラバス）作成ガイドライン」を定め、各教員はガイドラインに従って授業計画（シラバス）を作成している。 授業計画（シラバス）は、本校の教育課程編成委員会において、取り入れるべき技術要素の提案および改善点の指摘を受け、期末に見直しと内容の更新を行っている。授業計画（シラバス）の内容については各教科目の初回の授業開始時に担当教員から学生に対して具体的な説明を行っており、また、教職員室での備え付け、学内システムに学生が随時閲覧可能な状態になっている。
成績評価の基準・方法
（概要） 「A」「B」「C」「D」の4段階の評価をそれぞれ3点から0点までに点数化し、点数の合計を授業科目数で除すことで、学生一人一人のGPAの算出を行い、成績の分布状況の把握を行っている。 成績不振に該当する学生に対する個別指導等の判断材料として活用している。 なお、「認」「否」の2段階で成績評価を行う授業科目においては、点数化が困難であることから、上記GPAの対象から除くものとする。

卒業・進級の認定基準
（概要） 本校所定の全教育課程を修了し、「学則」に定めた卒業の要件を満たしている学生に関して、本校の教育方針である「高度な技術力の習得」「文書作成能力の育成」「豊かな人間性の涵養」の3項目の修得状況について会議により判定し、卒業後に活用・実践できる水準に達していることを確認できた場合に卒業認定を行っている。
学修支援等
（概要） 個別相談・指導等で対応するほか、学生の事情に応じ、家庭への電話連絡、個人面談、保護者との連携、専門家によるカウンセリング等を実施している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
109 人 (100%)	2 人 (1.8%)	101 人 (92.7%)	6 人 (5.5%)
（主な就職、業界等） システムエンジニア、インフラエンジニア、セキュリティエンジニア、システム運用、などの IT 業界に就職			
（就職指導内容） IT 業界について学び、求められる人材像などを理解した上で、個人面談で学生の資質や就職先希望などを具体的に絞り込み履歴書を作成、面接指導などを行っている。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 情報処理安全確保支援士、応用情報技術者試験、基本情報技術者試験、各種ベンダー資格			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
480 人	17 人	3.5%
（中途退学の主な理由） 病気療養及び進路変更		
（中退防止・中退者支援のための取組） 学生の様子（出席状況、授業態度、交友関係、小テストの成績等）を週次のクラス担任会議で共有し、注意を要する学生に対する支援策を都度実施している。また、臨床心理資格を有する専任カウンセラーを設置している。		

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
工業		工業専門課程	実践 AI 科			○	
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4 年	昼	144 単位 (2 年生以上は 3600 時間)	81 単位 (3570 時間)	51 単位 (1230 時間)	42 単位 (705 時間)	0 単位 (0 時間)	0 単位 (0 時間)
			174 単位 (2 年生以上は 5, 505 時間)				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
160 人		103 人	0 人	4 人	49 人	53 人	

※令和8年4月1日に学則変更を実施。

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 授業計画（シラバス）を作成する際に、「授業計画（シラバス）作成ガイドライン」を定め、各教員はガイドラインに従って授業計画（シラバス）を作成している。授業計画（シラバス）は、本校の教育課程編成委員会において、取り入れるべき技術要素の提案および改善点の指摘を受け、期末に見直しと内容の更新を行っている。授業計画（シラバス）の内容については各教科目の初回の授業開始時に担当教員から学生に対して具体的な説明を行っており、また、教職員室での備え付け、学内システムに学生が随時閲覧可能な状態になっている。
成績評価の基準・方法
（概要） 「A」「B」「C」「D」の4段階の評価をそれぞれ3点から0点までに点数化し、点数の合計を授業科目数で除すことで、学生一人一人のGPAの算出を行い、成績の分布状況の把握を行っている。 成績不振に該当する学生に対する個別指導等の判断材料として活用している。 なお、「認」「否」の2段階で成績評価を行う授業科目においては、点数化が困難であることから、上記GPAの対象から除くものとする。
卒業・進級の認定基準
（概要） 本校所定の全教育課程を修了し、「学則」に定めた卒業の要件を満たしている学生に関して、本校の教育方針である「高度な技術力の習得」「文書作成能力の育成」「豊かな人間性の涵養」の3項目の修得状況について会議により判定し、卒業後に活用・実践できる水準に達していることを確認できた場合に卒業認定を行っている。
学修支援等
（概要） 個別相談・指導等で対応するほか、学生の事情に応じ、家庭への電話連絡、個人面談、保護者との連携、専門家によるカウンセリング等を実施している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
30 人 (100%)	0 人 (0.0%)	29 人 (96.7%)	1 人 (3.3%)
（主な就職、業界等） AI エンジニア、データサイエンティスト、システムエンジニア、インフラエンジニア、システム運用、などの IT 業界に就職			
（就職指導内容） IT 業界について学び、求められる人材像などを理解した上で、個人面談で学生の資質や就職先希望などを具体的に絞り込み履歴書を作成、面接指導などを行っていく。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 応用情報技術者試験、基本情報技術者試験、G 検定、E 資格、各種ベンダー資格。			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
123 人	7 人	5.7%
（中途退学の主な理由） 早期就職および病気療養		
（中退防止・中退者支援のための取組） 学生の様子（出席状況、授業態度、交友関係、小テストの成績等）を週次のクラス担任会議で共有し、注意を要する学生に対する支援策を都度実施している。また、臨床心理資格を有する専任カウンセラーを設置している。		

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
工業		工業専門課程	先端 IT システム科		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼	107 単位 (2 年生以上は 2700 時間)	56 単位 (1050 時間)	35 単位 (3810 時間)	34 単位 (525 時間)	0 単位 (0 時間)	0 単位 (0 時間)
			125 単位 (2 年生以上は 5,385 時間)				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
75 人		232 人	0 人	5 人	37 人	42 人	

※令和8年4月1日に学則変更を実施。

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 授業計画（シラバス）を作成する際に、「授業計画（シラバス）作成ガイドライン」を定め、各教員はガイドラインに従って授業計画（シラバス）を作成している。授業計画（シラバス）は、本校の教育課程編成委員会において、取り入れるべき技術要素の提案および改善点の指摘を受け、期末に見直しと内容の更新を行っている。授業計画（シラバス）の内容については各教科目の初回の授業開始時に担当教員から学生に対して具体的な説明を行っており、また、教職員室での備え付け、学内システムに学生が随時閲覧可能な状態になっている。
成績評価の基準・方法
（概要） 「A」「B」「C」「D」の4段階の評価をそれぞれ3点から0点までに点数化し、点数の合計を授業科目数で除すことで、学生一人一人のGPAの算出を行い、成績の分布状況の把握を行っている。 成績不振に該当する学生に対する個別指導等の判断材料として活用している。 なお、「認」「否」の2段階で成績評価を行う授業科目においては、点数化が困難であることから、上記GPAの対象から除くものとする。
卒業・進級の認定基準
（概要） 本校所定の全教育課程を修了し、「学則」に定めた卒業の要件を満たしている学生に関して、本校の教育方針である「高度な技術力の習得」「文書作成能力の育成」「豊かな人間性の涵養」の3項目の修得状況について会議により判定し、卒業後に活用・実践できる水準に達していることを確認できた場合に卒業認定を実施。
学修支援等
（概要） 個別相談・指導等で対応するほか、学生の事情に応じ、家庭への電話連絡、個人面談、保護者との連携、専門家によるカウンセリング等を実施。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
13 人 (100.0%)	0 人 (0.0%)	12 人 (92.3%)	1 人 (7.7%)
（主な就職、業界等） システムエンジニア、インフラエンジニア、システム運用、などの IT 業界に就職			
（就職指導内容） IT 業界について学び、求められる人材像などを理解した上で、個人面談で学生の資質や就職先希望などを具体的に絞り込み履歴書を作成、面接指導などを行っていく			
（主な学修成果（資格・検定等）） 応用情報技術者試験、基本情報技術者試験、各種ベンダー資格			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
182 人	8 人	4.4%
（中途退学の主な理由） 病気療養及び進路変更		
（中退防止・中退者支援のための取組） 学生の様子（出席状況、授業態度、交友関係、小テストの成績等）を週次のクラス担任会議で共有し、注意を要する学生に対する支援策を都度実施している。また、臨床心理資格を有する専任カウンセラーを設置している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	情報処理科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	73 単位 (2 年生は 1800 時間)	67 単位 (1710 時間)	72 単位 (330 時間)	34 単位 (1365 時間)	0 単位 (0 時間)	0 単位 (0 時間)
			173 単位 (2 年生は 3405 時間)				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
320 人		178 人	0 人	6 人	33 人	39 人	

※令和8年4月1日に学則変更を実施。

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 授業計画（シラバス）を作成する際に、「授業計画（シラバス）作成ガイドライン」を定め、各教員はガイドラインに従って授業計画（シラバス）を作成している。授業計画（シラバス）は、本校の教育課程編成委員会において、取り入れるべき技術要素の提案および改善点の指摘を受け、期末に見直しと内容の更新を行っている。授業計画（シラバス）の内容については各教科目の初回の授業開始時に担当教員から学生に対して具体的な説明を行っており、また、教職員室での備え付け、学内システムに学生が随時閲覧可能な状態になっている。
成績評価の基準・方法
（概要） 「A」「B」「C」「D」の4段階の評価をそれぞれ3点から0点までに点数化し、点数の合計を授業科目数で除すことで、学生一人一人のGPAの算出を行い、成績の分布状況の把握を行っている。 成績不振に該当する学生に対する個別指導等の判断材料として活用している。 なお、「認」「否」の2段階で成績評価を行う授業科目においては、点数化が困難であることから、上記GPAの対象から除くものとする。
卒業・進級の認定基準
（概要） 本校所定の全教育課程を修了し、「学則」に定めた卒業の要件を満たしている学生に関して、本校の教育方針である「高度な技術力の習得」「文書作成能力の育成」「豊かな人間性の涵養」の3項目の修得状況について会議により判定し、卒業後に活用・実践できる水準に達していることを確認できた場合に卒業認定を行っている。
学修支援等
（概要） 個別相談・指導等で対応するほか、学生の事情に応じ、家庭への電話連絡、個人面談、保護者との連携、専門家によるカウンセリング等を実施している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
83 人 (100%)	1 人 (1.2%)	78 人 (94.0%)	4 人 (4.8%)
（主な就職、業界等） システムエンジニア、インフラエンジニア、システム運用、などの IT 業界に就職			
（就職指導内容） IT 業界について学び、求められる人材像などを理解した上で、個人面談で学生の資質や就職先希望などを具体的に絞り込み履歴書を作成、面接指導などを行っていく。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 応用情報技術者試験、基本情報技術者試験、各種ベンダー資格			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
168 人	11 人	6.5%
（中途退学の主な理由） 病気療養及び進路変更		
（中退防止・中退者支援のための取組） 学生の様子（出席状況、授業態度、交友関係、小テストの成績等）を週次のクラス担任会議で共有し、注意を要する学生に対する支援策を都度実施している。また、臨床心理資格を有する専任カウンセラーを設置している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	実践 IoT 科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	73 単位 (2 年生は 1800 時間)	32 単位 (1740 時間)	53 単位 (195 時間)	16 単位 (645 時間)	0 単位 (0 時間)	0 単位 (0 時間)
			101 単位 (2 年生は 2580 時間)				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40 人		16 人	0 人	3 人	36 人	39 人	

※令和8年4月1日に学則変更を実施。

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 授業計画（シラバス）を作成する際に、「授業計画（シラバス）作成ガイドライン」を定め、各教員はガイドラインに従って授業計画（シラバス）を作成している。授業計画（シラバス）は、本校の教育課程編成委員会において、取り入れるべき技術要素の提案および改善点の指摘を受け、期末に見直しと内容の更新を行っている。授業計画（シラバス）の内容については各教科目の初回の授業開始時に担当教員から学生に対して具体的な説明を行っており、また、教職員室での備え付け、学内システムに学生が随時閲覧可能な状態になっている。
成績評価の基準・方法
（概要） 「A」「B」「C」「D」の4段階の評価をそれぞれ3点から0点までに点数化し、点数の合計を授業科目数で除すことで、学生一人一人のGPAの算出を行い、成績の分布状況の把握を行っている。 成績不振に該当する学生に対する個別指導等の判断材料として活用している。 なお、「認」「否」の2段階で成績評価を行う授業科目においては、点数化が困難であることから、上記GPAの対象から除くものとする。
卒業・進級の認定基準
（概要） 本校所定の全教育課程を修了し、「学則」に定めた卒業の要件を満たしている学生に関して、本校の教育方針である「高度な技術力の習得」「文書作成能力の育成」「豊かな人間性の涵養」の3項目の修得状況について会議により判定し、卒業後に活用・実践できる水準に達していることを確認できた場合に卒業認定を行っている。
学修支援等
（概要） 個別相談・指導等で対応するほか、学生の事情に応じ、家庭への電話連絡、個人面談、保護者との連携、専門家によるカウンセリング等を実施している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
7 人 (100%)	1 人 (14.3%)	6 人 (85.7%)	0 人 (0.0%)
（主な就職、業界等） 組込系プログラマ、システムエンジニア、システム運用などの IT 業界に就職			
（就職指導内容） IT 業界について学び、求められる人材像などを理解した上で、個人面談で学生の資質や就職先希望などを具体的に絞り込み履歴書を作成、面接指導などを行っていく。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 応用情報技術者試験、基本情報技術者試験、各種ベンダー資格			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
18 人	1 人	5.6%
（中途退学の主な理由） 病気療養		
（中退防止・中退者支援のための取組） 学生の様子（出席状況、授業態度、交友関係、小テストの成績等）を週次のクラス担任会議で共有し、注意を要する学生に対する支援策を都度実施している。また、臨床心理資格を有する専任カウンセラーを設置している。		

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
工業		工業専門課程	Web 技術科		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
2 年	昼	74 単位 (2 年生は 1800 時間)	36 単位 (1770 時間)	57 単位 (195 時間)	17 単位 (615 時間)	0 単位 (0 時間)	0 単位 (0 時間)	
			109 単位 (2 年生は 2580 時間)					
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数		総教員数	
80 人		53 人	0 人	2 人	38 人		40 人	

※令和8年4月1日に学則変更を実施。

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 授業計画（シラバス）を作成する際に、「授業計画（シラバス）作成ガイドライン」を定め、各教員はガイドラインに従って授業計画（シラバス）を作成している。 授業計画（シラバス）は、本校の教育課程編成委員会において、取り入れるべき技術要素の提案および改善点の指摘を受け、期末に見直しと内容の更新を行っている。授業計画（シラバス）の内容については各教科目の初回の授業開始時に担当教員から学生に対して具体的な説明を行っており、また、教職員室での備え付け、学内システムに学生が随時閲覧可能な状態になっている。
成績評価の基準・方法
（概要） 「A」「B」「C」「D」の4段階の評価をそれぞれ3点から0点までに点数化し、点数の合計を授業科目数で除すことで、学生一人一人のGPAの算出を行い、成績の分布状況の把握を行っている。 成績不振に該当する学生に対する個別指導等の判断材料として活用している。 なお、「認」「否」の2段階で成績評価を行う授業科目においては、点数化が困難であることから、上記GPAの対象から除くものとする。
卒業・進級の認定基準
（概要） 本校所定の全教育課程を修了し、「学則」に定めた卒業の要件を満たしている学生に関して、本校の教育方針である「高度な技術力の習得」「文書作成能力の育成」「豊かな人間性の涵養」の3項目の修得状況について会議により判定し、卒業後に活用・実践できる水準に達していることを確認できた場合に卒業認定を行っている。
学修支援等
（概要） 個別相談・指導等で対応するほか、学生の事情に応じ、家庭への電話連絡、個人面談、保護者との連携、専門家によるカウンセリング等を実施している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
31 人 (100%)	0 人 (0.0%)	25 人 (80.6%)	6 人 (19.4%)
（主な就職、業界等） Web エンジニア、Web デザイナ、システムインテグレータ、プログラマ、システム運用などの IT 業界に就職			
（就職指導内容） IT 業界について学び、求められる人材像などを理解した上で、個人面談で学生の資質や就職先希望などを具体的に絞り込み履歴書を作成、面接指導などを行っていく。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 応用情報技術者試験、基本情報技術者試験、各種ベンダー資格			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
64 人	8 人	12.5%
（中途退学の主な理由） 病気療養及び進路変更		
（中退防止・中退者支援のための取組） 学生の様子（出席状況、授業態度、交友関係、小テストの成績等）を週次のクラス担任会議で共有し、注意を要する学生に対する支援策を都度実施している。また、臨床心理資格を有する専任カウンセラーを設置している。		

分野		課程名	学科名	専門士		高度専門士	
工業		工業専門課程	IT ライセンス科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1 年	昼	38 単位	20 単位	25 単位	6 単位	0 単位	0 単位
			51 単位				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
50 人		0 人	0 人	2 人	16 人	18 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 授業計画（シラバス）を作成する際に、「授業計画（シラバス）作成ガイドライン」を定め、各教員はガイドラインに従って授業計画（シラバス）を作成している。 授業計画（シラバス）は、本校の教育課程編成委員会において、取り入れるべき技術要素の提案および改善点の指摘を受け、期末に見直しと内容の更新を行っている。授業計画（シラバス）の内容については各教科目の初回の授業開始時に担当教員から学生に対して具体的な説明を行っており、また、教職員室での備え付け、学内システムに学生が随時閲覧可能な状態になっている。
成績評価の基準・方法
（概要） 「A」「B」「C」「D」の4段階の評価をそれぞれ3点から0点までに点数化し、点数の合計を授業科目数で除すことで、学生一人一人のGPAの算出を行い、成績の分布状況の把握を行っている。 成績不振に該当する学生に対する個別指導等の判断材料として活用している。 なお、「認」「否」の2段階で成績評価を行う授業科目においては、点数化が困難であることから、上記GPAの対象から除くものとする。
卒業・進級の認定基準
（概要） 本校所定の全教育課程を修了し、「学則」に定めた卒業の要件を満たしている学生に関して、本校の教育方針である「高度な技術力の習得」「文書作成能力の育成」「豊かな人間性の涵養」の3項目の修得状況について会議により判定し、卒業後に活用・実践できる水準に達していることを確認できた場合に卒業認定を行っている。
学修支援等
（概要） 個別相談・指導等で対応するほか、学生の事情に応じ、家庭への電話連絡、個人面談、保護者との連携、専門家によるカウンセリング等を実施している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0 人 (0.0%)	0 人 (0.0%)	0 人 (0.0%)	0 人 (0.0%)
（主な就職、業界等） プログラマ、システムエンジニア、ネットワークエンジニア、システム運用などの IT 業界に就職			
（就職指導内容） IT 業界について学び、求められる人材像などを理解した上で、個人面談で学生の資質や就職先希望などを具体的に絞り込み履歴書を作成、面接指導などを行っていく。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 基本情報技術者試験、IT パスポート試験、情報検定情報活用試験 2 級、各種ベンダー資格			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0 人	0 人	0.0%
（中途退学の主な理由） 中途退学なし		
（中退防止・中退者支援のための取組） 学生の様子（出席状況、授業態度、交友関係、小テストの成績等）を週次のクラス担任会議で共有し、注意を要する学生に対する支援策を都度実施している。また、臨床心理資格を有する専任カウンセラーを設置している。		

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
商業実務		商業実務専門課程	ビジネス科		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
2 年	昼	69 単位 (2 年生は 1800 時間)	38 単位 (2625 時間)	57 単位 (105 時間)	14 単位 (0 時間)	0 単位 (0 時間)	0 単位 (0 時間)	
			109 単位 (2 年生は 2730 時間)					
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数		総教員数	
80 人		57 人	0 人	3 人	24 人		27 人	

※令和8年4月1日に学則変更を実施。

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 授業計画（シラバス）を作成する際に、「授業計画（シラバス）作成ガイドライン」を定め、各教員はガイドラインに従って授業計画（シラバス）を作成している。 授業計画（シラバス）は、本校の教育課程編成委員会において、取り入れるべき技術要素の提案および改善点の指摘を受け、期末に見直しと内容の更新を行っている。授業計画（シラバス）の内容については各教科目の初回の授業開始時に担当教員から学生に対して具体的な説明を行っており、また、教職員室での備え付け、学内システムに学生が随時閲覧可能な状態になっている。
成績評価の基準・方法
（概要） 「A」「B」「C」「D」の4段階の評価をそれぞれ3点から0点までに点数化し、点数の合計を授業科目数で除すことで、学生一人一人のGPAの算出を行い、成績の分布状況の把握を行っている。 成績不振に該当する学生に対する個別指導等の判断材料として活用している。 なお、「認」「否」の2段階で成績評価を行う授業科目においては、点数化が困難であることから、上記GPAの対象から除くものとする。
卒業・進級の認定基準
（概要） 本校所定の全教育課程を修了し、「学則」に定めた卒業の要件を満たしている学生に関して、本校の教育方針である「高度な技術力の習得」「文書作成能力の育成」「豊かな人間性の涵養」の3項目の修得状況について会議により判定し、卒業後に活用・実践できる水準に達していることを確認できた場合に卒業認定を行っている。
学修支援等
（概要） 個別相談・指導等で対応するほか、学生の事情に応じ、家庭への電話連絡、個人面談、保護者との連携、専門家によるカウンセリング等を実施している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
35 人 (100%)	0 人 (0.0%)	34 人 (97.1%)	1 人 (2.9%)
（主な就職、業界等） 一般事務、秘書、受付、銀行窓口、販売、ショップ店員、簿記、会計、経理などのビジネス業界に就職			
（就職指導内容） ビジネス業界について学び、求められる人材像などを理解した上で、個人面談で学生の資質や就職先希望などを具体的に絞り込み履歴書を作成、面接指導などを行っていく。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 秘書技能検定、サービス接客実務検定、ファイナンシャル・プランニング技能士、日商簿記検定、全経簿記検定、Microsoft Office Specialist、SNS マーケティング検定			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
67 人	2 人	3.0%
（中途退学の主な理由） 病気療養及び進路変更		
（中退防止・中退者支援のための取組） 学生の様子（出席状況、授業態度、交友関係、小テストの成績等）を週次のクラス担任会議で共有し、注意を要する学生に対する支援策を都度実施している。また、臨床心理資格を有する専任カウンセラーを設置している。		

②学校単位の情報

a)「学生納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考（任意記載事項）
情報セキュリティ学科	200,000 円	840,000 円	300,000 円	その他： 施設維持費
実践 AI 科	200,000 円	840,000 円	300,000 円	
先端 IT システム科	200,000 円	840,000 円	300,000 円	
実践 IoT 科	200,000 円	840,000 円	300,000 円	
情報処理科	200,000 円	840,000 円	300,000 円	
Web 技術科	200,000 円	840,000 円	300,000 円	
IT ライセンス科	200,000 円	840,000 円	300,000 円	
ビジネス科	200,000 円	840,000 円	300,000 円	
修学支援（任意記載事項）				
岩崎学園奨学生制度、岩崎学園震災特別対応基金制度、特待生制度、等 日本学生支援機構の給付型奨学金の採用候補者に対して、入学金は入学意思の確認のため一旦納入をお願いしつつ、希望者には授業料等の学費については入学後に授業料等減免額を減じた金額の分割納入を認めている。その他、個々の学生の状況・希望に応じた柔軟な対応を実施している。				

b) 学校評価

自己点検評価結果の公表方法		
（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） Web サイトで公開 https://isc.iwasaki.ac.jp/school/disclosure/		
第三者評価の基本方針（実施方法・体制）		
各年度の学校運営について、委員として委嘱した4名の委員により以下に関する意見を求める。 ①本校の教育目標、教育方針、教育計画に関すること、②教育活動の実施に関すること、③学校と地域の連携の進め方に関すること、④その他本校の学校運営に関すること。 また、これら評価結果については、毎年末に実施する教務部長および学科責任者による次年度カリキュラム編成会議等において、学科毎にカリキュラムや教務運営方針に反映し活用する。		
第三者評価の委員		
所属	任期	種別
株式会社ラック	2025 年 4 月 1 日～2027 年 3 月 31 日（2 年）	企業等
ゾーホージャパン株式会社	2025 年 4 月 1 日～2027 年 3 月 31 日（2 年）	企業等、卒業生
神奈川県立図書館	2025 年 4 月 1 日～2027 年 3 月 31 日（2 年）	地域代表委員
情報科学専門学校 保護者	2023 年 4 月 1 日～2027 年 3 月 31 日（4 年）	保護者

第三者評価結果の公表方法
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) Web サイトで公開 https://isc.iwasaki.ac.jp/school/disclosure/
(備考)

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://isc.iwasaki.ac.jp/
--

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	H114310000161
学校名（〇〇大学 等）	情報科学専門学校
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	学校法人岩崎学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生（内数） ※家計急変による者を除く。		260人（ 101）人	260人（ 104）人	268人（ 104）人
内 訳	第Ⅰ区分	104人	95人	
	（うち多子世帯）	（ 23人）	（ 17人）	
	第Ⅱ区分	44人	38人	
	（うち多子世帯）	（ 一人）	（ 一人）	
	第Ⅲ区分	28人	27人	
	（うち多子世帯）	（ 一人）	（ 一人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	22人	28人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	13人	19人	
	区分外（多子世帯）	49人	53人	
家計急変による 支援対象者（年間）				0人（ 0）人
合計（年間）				268人（117）人
（備考）				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	一人	0人	一人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	0人	0人	0人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0人	一人	0人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	0人	0人	0人
計	一人	一人	一人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
G P A等が下位4分の1	0人	0人	0人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	0人	0人	0人
G P A等が下位4分の1	0人	0人	0人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	25人	一人	一人
計	25人	一人	一人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。